

平成20年度補助金項目別評価結果

必要性	1. 町民のニーズ(団体の活動が町民に求められているか)	A 町民のニーズが大きい 90.24% 37/41	B 町民のニーズが少ない、又は町民のニーズがない 9.76% 4/41		
	2. 社会情勢上必要か	A 社会情勢からみて実施すべき事業である 100.00% 42/42	B 社会情勢からみて、既に役割を終えた事業である 0.00% 0/42		
目的妥当性	3. この補助金は広く町民のためになっているか	A 広く町民のためになっている 73.81% 31/42	B 特定の者に限定して利益がある 26.19% 11/42		
	4. この補助金の支出は、町が税金を投入して行うべき事業ですか	A 税金を投入して行う事業である 78.57% 33/42	B 税金を投入する以外の方法について検討の余地がある 21.43% 9/42		
有効性	5. 事業の効果が具体的に把握できているか	A 具体的な成果を数値等で明確に示すことができる 69.05% 29/42	B 具体的な成果を示すことは困難である 30.95% 13/42		
	6. 補助金を交付することで期待された成果は得られましたか	A 期待した以上の成果があった 11.91% 5/42	B 期待したとおりの成果があった 80.95% 34/42	C 期待したほどの成果が得られなかった 7.14% 3/42	D 成果が少なく今後も向上する見込みがない
公平性	7. 対象者すべてに補助金が交付されているか	A すべての対象者に交付されている 80.95% 34/42	B 一部の対象者に交付されている 19.05% 8/42		
その他	8. これまで見直し実績はあるか	A 今までに補助金について見直しを行った 57.14% 24/42	B 見直しを行ったことがない 42.86% 18/42		